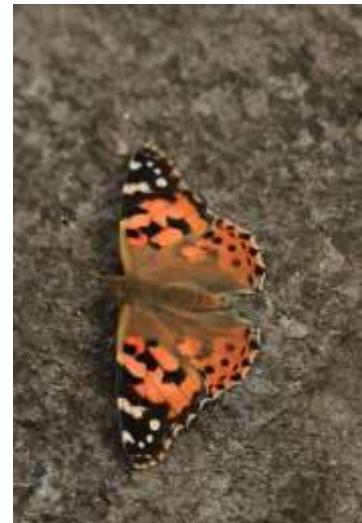


# アカゲラ通信



## 北のフロンティアを目指す蝶

秋に見られるヒメアカタテハ(右写真)は、本州以南で発生し北海道に渡ってきます。しかし、北海道で繁殖することはありません。産卵し孵化し成虫になるには北海道に到達する時期が遅すぎ、卵や幼虫や成虫で越冬することもできないためです。トンボの仲間のウスバキトンボも同じような行動様式をとります。これらは北海道に来てもただ死ぬだけで、一見、意味がないように思われます。しかしそこには、種としての戦略があるのです。この行動を何十年何百年何千年あるいはそれ以上の世代で繰り返してゆくうちに、気候や気象の条件が変わって暖かくなり、新しい北の土地で繁殖できるようになるかもしれない。あるいは、種の中で寒い地方に適応できたり成長が速くなるように変異するものが現れ、繁殖できるようになるかもしれない。今まで、そうすることで繁殖地を北に広げてきている可能性もあります。生き物には、人間の一生では到底追うことができない壮大な物語があるのです。この秋ヒメアカタテハを見かけたら、そんなことも考えてみてはいかがでしょうか。



## 新しい食感に気づいた？！ エゾリス

この夏、カラマツ林近くの散策路に、カラマツの実＝松ぼっくりの破片がたくさん落ちていました(右写真右下)。

それは、エゾリスがまだ成熟していない青い部分があるカラマツを食べた「食べかす」。松ぼっくりの断片をはがし種子だけ食べて捨てるもので、断片をはがしてエビフライのような形になったものや(右写真左下)、途中でやめたか落としてしまって「歯抜け」状態になった松ぼっくりも落ちていました。

エゾリスはカラマツの実を食べますが主に冬で、しかも常食としてはいないのか、カラマツのエビフライは冬でもあまり見かけない珍しいものです。

この夏カラマツを食べていたのは若い1個体で、どうやらカラマツがおいしいことに気づいたのではないかと考えられます。

そうなると、他には誰も食べないのでまさに食べ放題。

来年の夏も食べるのか、他の個体も食べるようになるのか、要注目です。



## レストハウスだより 2020年9月

今年の夏をいつになく過酷な?夏と感じた方々も多くおいでのことと思います。コロナ禍自粛の諸々も重なり真夏日の連続はことさらに過酷さを体感させられた日々でした。皆様、無事に乗り越えられた事と推察致します。

終盤になって急に気温が下がり体調を維持することも難しくなりました。長袖の着衣でコマメな体調管理を心がけて頂きたいものです。

レストハウスに併設された売店では、9月に入って好天が続くとの長期予報に期待し、かき氷やソフトアイスの品揃えも夏場同様です。

爽やかな気候に誘われて食欲も旺盛になる折り〈炭焼きチキン〉〈ホットドッグ〉〈たこ焼き〉などフードメニューも充実させてお持ちいたしております。

中心部に近く市内を一望し自然を感じることのできるロケーションを満喫して頂きたいものです。気軽にお立ち寄りください。



↑たこ焼き 400円

## 旭山野鳥メモ⑯ ヤマガラ

ヤマガラ Varied Tit *Poecile varius* スズメ目シジュウカラ科

日本全国で留鳥。元来南方系の鳥で、北海道では北と東で少なく、見られない地域もある。札幌圏では多いが見られない場所もある。

ヤマガラは餌を取って近くの木に移動して食べる習性があり、昔はそれを利用して神社のおみくじを引く鳥として飼われていた(今は禁止)。

ヤマガラはイチイ=オンコの実が好物だが、外側の甘い部分は食べずにそぎ落とし、中の種子を食べる。ヤマガラがよく来るイチイやその周りの木の枝にはそがれた赤い実がくっついている。中の種子は有毒だがヤマガラは何らかの方法で毒が回らないようになっているらしい。



■イチイの実を食べるヤマガラと赤い実がくっついた枝

ヤマガラは、頭が大きく目が小さく見え、他のカラ類よりも「かわいい」と感じられるようで人気が高い。

英名の”varied”は「多彩な」という意味で、学名の後ろの単語=種小名にも同じ言葉が使われているが、確かに他のシジュウカラ科の鳥にはない色合い。その橙色は、色彩感覚の乏しい冬に映え、暖かみが感じられるのも人気がある理由のひとつ。おまけにどこか人懐っこくてユーモラス、見ているとよく目と目が合う。

ヤマガラの頭は見事なまでの「逆モヒカンヘア」、真ん中が白くその両脇に黒い帯がありきわめて特徴的。

### 8月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただか、森の家までおたずねください。

★キクイタダキ=例年10月に山から降りてきますが、今年は8月下旬に早々と見られるようになりました。山に餌が少ないのでしょうか?



★シメ=旭山で見られるのは例年9月ですが、こちらも今年は8月下旬に見られるようになりました。シメは秋に大陸から渡って来るものもいます。

★キビタキ・コサメビタキ=今月いっぱいは観察できそうです。

★クロツグミ=今月下旬から渡りの準備で集まってきます。

★クマゲラ=週に何度か園内に来ており、例年冬まではそんな感じです。

★ヤマゲラ=8月に森の家周辺で幼鳥がよく見られました。「ヒヨツ」と頼りなげに鳴きます。↑ヤマゲラ幼鳥

★チゴハヤブサ=今年は夏以降園内で頻繁に観察されています。かつてなかったことですが来年はどうか?

★シマエナガ=8月も観察情報はほとんどありませんでしたが、秋になりそろそろ見られ始めるでしょうか。

### 旭山生き物ミニ図鑑 2020年9月 9月に見られる生きもの



ニホンカナヘビの子ども



秋に森で出会うエゾアカガエル



秋に多いミカドフキバッタ



オオスズメバチ(秋も要注意)



エゾノコンギク



エゾゴマナ



アキノノゲシ(噴水広場付近)



ツリバナの実(種子)



公式サイト

「アカゲラ通信」 第83号 2020(令和2)年9月7日発行

発行: (公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所: 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先: 電話 011-200-0311 (土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>